

2 (3) 授業の質的改善のプロセス (C校第6学年)

(イ)「調べる学習活動」における授業の質的改善

検証授業① (9月実践)

本時の目標

蘭学について調べたことを基に、蘭学を学んだ人々の思いについて考え、表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

本時に取り入れる手立て

C⑥資料 (写真, 教科書等の文章等) を一つずつ確認し, どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。

D①事実を調べた後に, 意味を問う発問を段階的に行う。

本時の授業の様子

学 習 活 動	授業の様子 (T…教師, C…児童) 質的改善を図った手立て (ゴチック)
1 本時のめあてをつかむ。	
めあて 蘭学について, 調べよう。	
2 本時の学習の流れをつかむ。 	<p>T: 今日の学習の流れは, 「読む⇒話す⇒調べる」 まず, 教科書を読みます。そして, 蘭学「解体新書」と「日本地図」に関する話を話します。 C: (グループでお互いに向かい合って読み始める。)</p>
【学習の流れを確認している様子】	
3 蘭学について調べる。 	<p>C⑥資料 (写真, 教科書等の文章等) を一つずつ確認し, どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。 T: まず, 「蘭学」とはどのような学問のことか調べてください。 次に, 「解体新書」と「日本地図」に関する人物などを調べてください。 C: (調べ始める。)</p>
4 調べたことを発表する。  解体新書を作成した人は誰ですか。	<p>T: 調べたことを発表してください。解体新書と地図を作った人は誰ですか。 C: 杉田玄白と前野良沢です。伊能忠敬です。 T: 蘭学とはどのような学問ですか。 C: ヨーロッパの新しい知識や技術のことです。 T: 杉田玄白と前野良沢, 伊能忠敬はそれぞれ何をしたのですか? C: (教師の発問に対する応答が続く。)</p>

5 蘭学を学んだ人の思いについて考える。



D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。

T：蘭学を学んだ人たちは、あることを考えていました。何を考えていたのですか。

C：政治や社会がこのままではいけない。

T：その前に何か考えていたのではないかな？

C：新しい技術を役立てようとした。

T：今までにはなかったことが起こったのも関係しています。

C：外国船を打ち払った。

T：打ち払う前。

C：ロシア・イギリス・アメリカの船が日本へ近付いてきた。

T：こんな世の中だからこそ、こんなこと（本時で調べた板書の内容を指して）が起こったようです。

6 本時の学習のまとめをする。



本時の板書

本時の成果と課題（○成果、●課題）

- 資料（写真、教科書等の文章等）を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせながら、調べ学習に取り組みさせたことで、何を調べるのか明確になっていた。
- 資料を一つずつ確認することで、教師の指示が多くなってしまい、主体的な学びという点で疑問が残った。主体的に調べ学習に取り組むことができるように手立てを工夫する必要がある。
- 「蘭学を学んだ人々の思い」について考えさせたかったが、どのような調べた事実を基にどのように考えればよいのか明確に伝わっていなかったため、思いについても調べている児童がいた。調べた事実と事実を基にした考えとを区別できるような手立てを取り入れる必要がある。



次単元に取り入れる手立て

D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。

D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。

C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。

2 (3) 授業の質的改善のプロセス (C校第6学年)

(イ)「調べる学習活動」における授業の質的改善

検証授業② (10月実践)

本時の目標

国民は政治参加を望んでいたが、選挙権が制限されており、政府は天皇中心の国づくりを目指していたことを考え、表現することができるようにする。 【社会的な思考・判断・表現】

本時に取り入れる手立て

- D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。

本時の授業の様子

学 習 活 動	授業の様子 (T…教師, C…児童) 質的改善を図った手立て (ゴチック)
1 学習問題や本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 学習問題「江戸時代末期から明治維新にかけて、どのように変わったのだろうか。」 </div>
本時のめあて 「憲法」は、どのようなものができたのだろうか。	
2 「大日本帝国憲法」「五日市憲法」の資料を見て、何の資料か、どのような様子かを予想させる。	
3 「大日本帝国憲法」「五日市憲法」に関わる資料が何を表しているか、読み取れることはどのようなことかを調べる。	C⑫調べた内容について、問い返して、事実相互を関連付けて考えさせる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> (ワークシートの児童の記述を指しながら) ここまでは「調べたこと」で、ここからは「考えたこと」だね。 (D②調べた事実と考えを明確に分けるようにする。) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> T: 何という資料ですか C: 「自由民権派が作った憲法草案の記念碑」の写真です。 T: この資料は、何を表す資料ですか。 C: 憲法草案についてです。 </div>
	D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> T: (板書の左側を指して) こちらは、どのような憲法の案だったのでしょうか。 C: 国民が作ったものです。 T: (板書の右側を指して) こちらは、どのような内容のものでしたか。 C: 天皇が中心の内容です。 T: 天皇の権限が強い、ということができます。 </div>

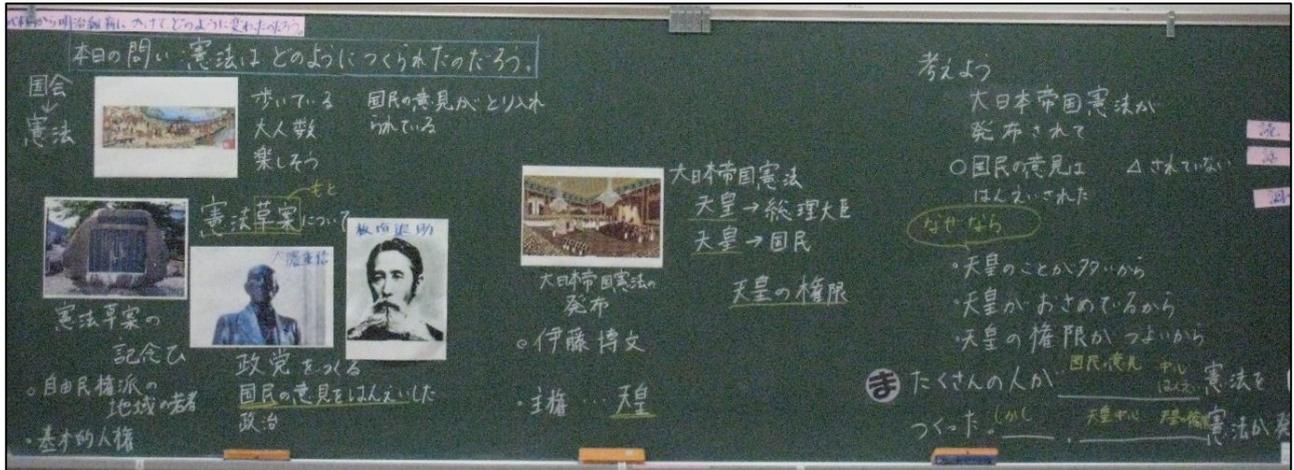
4 「大日本帝国憲法」と「五日市憲法」とを比較して、国民の政治参加について考える。

T: では、新しく決まった憲法は、国民の意見が反映されているでしょうか。憲法が決まったので、国民が望んでいた「国会」を開くことができます。これでよかったんですね。

C: どうだろう・・・(つぶやき「よかった」「いや…」)

T: 自分の考えを書いてみましょう。まず、「反映された」「されてない」を決めましょう。そして「なぜなら」に続けてそう考えたわけを書いてみましょう。

5 本時のまとめをする。



本時の板書

本時の成果と課題 (○成果, ●課題)

- 児童は「調べたこと」と「考えたこと」を分けて自分の考えを記述することができていた。授業前半は資料を基に調べる学習を中心にし、後半に調べたことを活用して考える学習を行ったため、「調べたこと」と「考えたこと」とを分けて記述することができたと考えられる。また、調べ学習の途中で教師が価値付けを行いながら机間指導を行ったことも効果的であったと考える。
- 憲法草案と大日本帝国憲法の比較を通して、「どのような内容か」意味を問う発問を行ってはいいるが、最終的に「天皇の権限が強い」ということを教師の言葉で説明しているため、児童が自らの言葉で説明することができるように、段階的に意味を問う発問を行う必要がある。
- 教師が「国民の願いは叶ったね？国会を開けたから…」と児童の思考を揺さぶる目的の発問をしたが、最終的な児童の意見文の中に「国民の願いは叶った」と記述しているものがあつた。本時に調べたことではないことで表現をさせてしまった。自分の考えを記述させる前に、児童に考えを更に交流させ、事実を基に十分に吟味を行わせてから記述させた方がよかった。



次単元に取り入れる手立て

- D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。

2 (3) 授業の質的改善のプロセス (C校第6学年)

(イ)「調べる学習活動」における授業の質的改善

検証授業③ (11月実践)

本時の目標

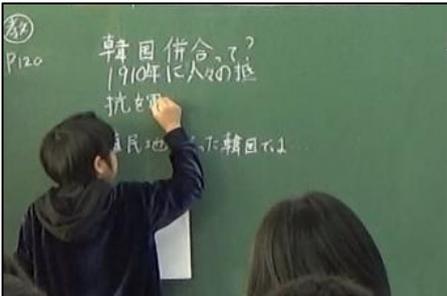
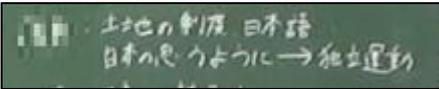
韓国併合について調べたことを基に、当時の韓国の人々の動きについて考え、表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

本時に取り入れる手立て

- D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。

本時の授業の様子

学 習 活 動	授業の様子 (T…教師, C…児童) 質的改善を図った手立て (ゴチック)
1 本時のめあてをつかむ。	
本時のめあて：韓国併合とは、どのようなものだろう。	
2 本時の資料の確認をする。	 <p>ワークシートには、みんなが「調べたい」と書いていたことから、今日調べられそうなことを載せています。</p>
3 韓国併合について調べる。	 <p>【調べたことを黒板に書く児童】</p> <p>D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。</p> <p>C：支配することです。 T：韓国が併合されるということを「支配する」という言葉で表しているのは、何という言葉からですか。 C：「植民地」という言葉からです。 T：（地図を見て）この地図は、何だったのですか。 C：（日本の）領地です。戦争後に加わりました。 T：日本になりたくなつたのでしょうか。 C：いや、無理やり・・・ T：植民地になったところなのですね。</p>
4 調べたことを発表する。	 <p>【事実と考えを分けた児童の考え】</p> <p>T：（黒板の児童の板書を指しながら）このように、土地の制度が変わったことや日本語が教えられたことは『調べたこと』だけど、「日本の思うように」というのは『考えたこと』ですね。</p>

5 韓国併合について考える。

黄色で線を引いたところ（事実）をうまく使うといいですね。（D②）



【事実と考えを分けて記述するように声掛けをしている様子】

6 本時の学習についてまとめる。

C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。

T: 韓国を併合して、韓国の人たちはどうなったのでしょうか。

C: 併合された。植民地になった。

C: 日本の思うようになった。

T: まず、何かが起こりました。何が起こりましたか。

C: 日本語の教育が始まった。

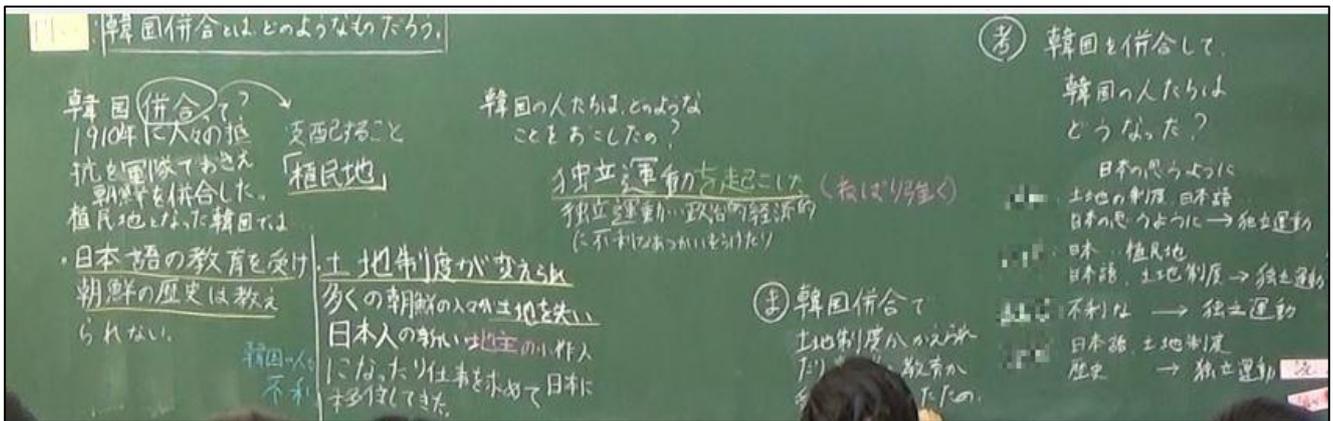
C: 土地を失いました。

T: それだけでしょうか。

C: 独立運動が起こりました。

T: このようなことをうまく使って、韓国が併合され韓国の人たちはどうなったのかを書いてみてください。

C: (書き始める)



本時の板書

本時の成果と課題 (○成果, ●課題)

- 調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせたことで、児童は調べた内容をつなげて振り返りの記述をすることができていた。
- 事実と考えとを分けて記述している児童を称賛したり、考える際に使うキーワードに注目させたりしたことで、調べた事実を基に自分の考えを記述することができた児童が増えた。
- 調べた内容をつなげて振り返りの記述をすることはできたが、事実を相互に並べて記述している児童が多かった。例えば「日本語の教育を受けたり、土地を失ったりしたが、独立運動を続けた」というように、事実を相互に関連付けて考え、記述することができるようにしていきたい。本時に取り入れたD①D②C⑫の手立てを継続的に取り入れていくことにする。



次単元に取り入れる手立て

- D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。